

おがさわら 小笠原

再生 目標

島の自然と人間とが共生していくための仕組みを築き、自然再生の手助けを行うことにより、自然の進化や変化が健全に進行する状態にする

DATA

エリア：小笠原国立公園
所在地：東京都小笠原村
着手：H14

小笠原諸島世界自然遺産候補地 地域連絡会議及び科学委員会

概要：地元関係者や関係機関、学識経験者が連携・協力し、合意形成を図りながら、小笠原諸島における外来種の防除や植生復元等をはじめとした、諸島全体の保護管理に関する総合的な取組方策を検討。



兄島乾性低木林



ムニンツツジ



オガサワラノスリ



小笠原国立公園は、東京の南約 1,000km から南へ続く父島、母島など大小 30 の島からなる小笠原諸島の大半を含む国立公園です。また、海洋性の亜熱帯気候に属し、大陸から隔絶されているため、オガサワラオオコウモリやムニンノボタン等の固有の動植物が多く生息する独特の島しょ生態系を持ち、学術的にも極めて貴重な地域です。さらに、サンゴ群集や熱帯魚等の多彩な海中景観も大きな特徴となっています。

しかし、小笠原のほぼ全域において、人間活動に起因する外来種の定着および分布の拡大が進み、在来の自然生態系、生物多様性が危機的な状況にあります。このため、外来種によって自然生態系が攪乱されている地域、あるいは固有種等の衰退が生じている地域を対象に、特に優先して対策を講ずべき地域を選定し、海洋島独特の生態系を再生するための取組みを進めています。

外来種の侵入による固有種・在来種の絶滅の恐れ



希少昆虫を捕食するグリーンアノール



ノヤギの食害や踏圧により植生が消え赤土が流失



外来植物（アカギ）が繁茂して生物多様性が低下した森林

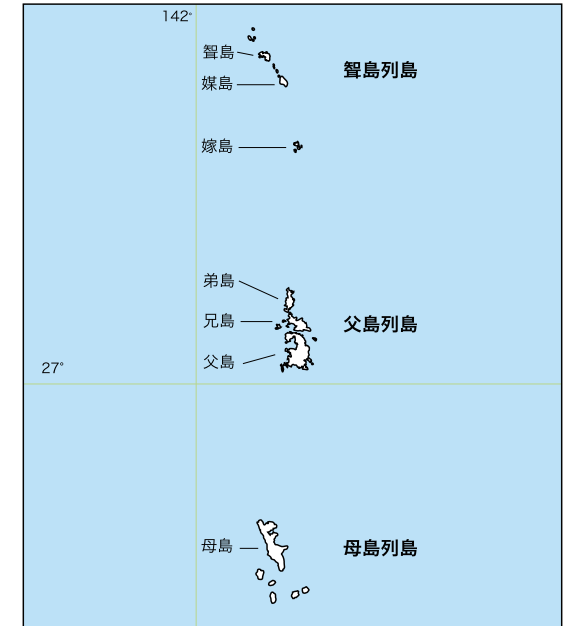
自然再生の手法

- ▶ 外来種に攪乱された生態系の健全化→①②③
- ▶ 海洋島に残された固有種等の保全→①②③
- ▶ 自然を再生し、自然と共生するための地域づくり→③

外来種の影響を軽減し、健全な生態系を回復するため、外来種の駆除や、在来動植物相の復元に関する実証試験等を実施しながら、自然再生手法の検討・確立に取り組んでいます。また、持続的な利用を可能にするルールを定めることなどにより、自然と共生する地域づくりを進めています。



母島南崎



① 外来種の駆除、自然再生手法の検討

小笠原諸島では、ノヤギの食害と踏圧による植生破壊や、グリーンアノールによる希少昆虫の捕食などによって、島しょ生態系に大きな影響が現れています。このため、これら外来種の生態等を調査し、効果的な防除手法や失われた自然を再生するための手法の検討や実証試験を行っています。



ノヤギ侵入防止柵で囲った植生回復試験区（弟島）



新たに開発したアノール捕獲用粘着トラップ



② 外来種駆除の実施

実証試験で得た知見をもとに、母島北部では在来植生を駆逐するアカギの薬剤枯殺による広域駆除、弟島ではノブタ、ウシガエルの島内根絶に向けた駆除を実施しています。



アカギの薬剤枯殺（薬剤の染み込んだコルクを根元に打ち込む）



ノブタ捕獲用の箱罠



ウシガエル捕獲トラップ

③ 外来種の駆除に取り組む地域づくり

靴に付着した外来植物の種子などが他の島へ拡散しないように、船着き場では靴の泥落としとコーナースタンプが設けられ、乗降時の靴底チェックが行われています。また、地元ボランティアによって、外来植物の駆除作業も実施されています。



靴の泥落とし



地元ボランティアによる外来植物駆除作業